

ISSN 1881 — 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：隅田 学
事務局：中西印刷株式会社 学会部内
URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2025.10.15
NO.274
.....

科学教育研究レター



目 次

■ 理事会だより	2	■ 若手活性化委員会だより	24
第 313 回理事会報告		第 49 回日本科学教育学会年会若手企画報告	
第 314 回理事会報告		2025 年日本科学教育学会研究会(若手活性化委員会 開催)予告	
■ 日本科学教育学会創立 50 周年 記念事業企画・実行委員会	7	■ 編集委員会だより	27
科学教育啓発活動・イベント部門プレ行事開催報告		2024 年度第 4 回編集理事会報告	
■ 年会	9	2025 年度第 1 回編集委員会報告	
第 49 回年会開催報告		第 49 回年会における編集委員会企画「会員と考 える「科学教育研究」のオープンアクセス化」の実施 特集投稿募集のお知らせ（再掲）	
■ 支部・研究会だより	10	「科学教育研究」編集状況報告	
2025 年度研究会開催のお知らせ		■ 広報委員会からのお知らせ	32
■ 調査研究・学術交流	18		
日本科学教育学会の活動に関するアンケート」のお 願い			
■ 国際交流委員会だより	19		
第 49 回日本科学教育学会年会国際ランチョン・ ミーティング開催報告			
2025 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交 流委員会開催）開催予告			
国際学会参加報告(74)			
国際学会開催情報			

日本科学教育学会第 313 回理事会報告

日 時 2025 年 6 月 14 日(土) 14:00～17:30
会 場 ハイブリッド開催 (対面：株式会社 内田洋行 茅場町ファーストビル)
出席者 会 長 隅田 学
副会長 竹中真希子 (オンライン参加), 久保田善彦, 西村圭一
理 事 松原憲治, 川上 貴, 松浦拓也, 山本容子, 内ノ倉真吾 (オンライン参加),
三宅志穂 (オンライン参加), 辻山洋介 (オンライン参加), 舟生日出男,
川越至桜, 中村大輝 (オンライン参加), 土佐幸子, 小松孝太郎 (オンライン参加),
大谷 忠, 山本智一, 向 平和 (オンライン参加), 舟橋友香 (オンライン参加),
竹内慎一
監 事 稲垣成哲
事務局長 益子典文
幹 事 鈴木宏昭 (オンライン参加)

1. 議事要録 (案) の承認

○第 312 回理事会議事録 (案) を承認した。

2. 第 313 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

- 事務局からの発議により, 2025 年 3 月 31 日までに入会を希望した 12 名 (会員番号[5147]から[5158]) を電子会議により審査した結果, 全員の入会及び会員種別の変更が承認された (2025 年 4 月 2 日).
- 事務局からの発議により, 2025 年 4 月 30 日までに入会を希望した 12 名 (会員番号[5159]から[5170]) を電子会議により審査した結果, 全員の入会及び会員種別の変更が承認された (2025 年 5 月 3 日).
- 事務局からの発議により, 2025 年 5 月 31 日までに入会を希望した 19 名 (会員番号[5171]から[5189]) と正会員からシニア会員への変更を希望した 5 名を電子会議により審査した結果, 全員の入会及び会員種別の変更が承認された (2025 年 6 月 3 日).

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

- 事務局より文書受理 (刊行物送付を含む) や諸対応について報告があった.
- 委員会で使用しているツールの確認等について報告があった.

2) 経理・会員

- 住所不明者について報告があった.

3) 機関誌編集

○編集状況, 次回特集, 今後の特集, オープンアクセスジャーナル化検討部会, 編集委員会主催ミーティングの準備状況, J-STAGE 投稿審査システムの運用および利用要件の改定案について報告があった.

4) 学会賞

○学会賞候補者の推薦について報告があった.

5) 支部・研究会

○本年度の研究会の開催, 次年度以降の研究会開催業務スケジュールの見直しとルール of 厳格化, 著作権使用許諾申請, 2024 年度予算執行状況について報告があった.

6) 調査研究・学术交流・男女共同参画ワーキング

○シンポジウムの開催と今後の予定について報告があった.

7) 国際交流

○国際ランチョン・ミーティング, JSSE 研究会, 国際学会参加について報告があった.

8) 年会企画

○今年度年会の収支決算書の訂正及び次年度の年会企画について報告があった.

9) 広報・学会 IT 化

○広報に関する検討と学会通信スケジュールについて報告があった.

10) 若手活性化

○委員会企画と研究会開催の準備状況について報告があった.

11) 日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会

科学教育啓発活動・イベント部門, 記念誌・シンポジウム部門, 科学教育研究促進部門

○創立 50 周年記念プレ行事の申込, 研究者リレーインタビュー, 記念誌, シンポジウム, 科学教育 Book Award の創設, 学会賞の再考について報告があった.

4. 協議事項

1) 庶務・事務局

○総会議事次第, 学会通信の修正依頼について説明があり, 承認された.

2) 経理・会員

○退会希望者が承認され, 現在の会員数について確認された.

・現在会員数: 1,412 名 (正会員 1,196 名, 学生会員 120 名, 名誉会員 21 名, 公共会員 2 名, 賛助会員 3 名, シニア会員 70 名) (2025 年 6 月 2 日付)

<前回会員数>1,405 名 (正会員 1,188 名, 学生会員 121 名, 名誉会員 21 名, 公共会員 2 名,

賛助会員 3 名，シニア会員 70 名）（2025 年 3 月 4 日付）

○会費納入の電子決済導入について提案があり承認された。

○2025 年度の収支予算書（案）について，6 月 28 日（土）までに確認，加筆することについて説明があった。

3) 学会賞

○学会賞選考について，説明があった。

4) 支部・研究会

○2025 年度の事業計画について説明があり，承認された。また，2025 年度からの支部長の交代について提案があり，関西支部長の交代(新支部長：加藤久恵)が承認された。なお任期は 2025 年度末までとする。

5) 調査研究・学术交流・男女共同参画ワーキング

○学会員対象の調査の質問項目，研究倫理に関する基本方針策定等に関する説明があり，承認された。

6) 国際交流

○委員交代（新委員：大寫竜午氏），委員追加（新委員：Kenneth Huff 氏）について説明があり，承認された。

7) 日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会

科学教育啓発活動・イベント部門，記念誌・シンポジウム部門，50 周年記念シンポジウムについて
○2025 年度事業計画，記念シンポジウムのテーマ（案）と趣旨について説明があり，承認された。

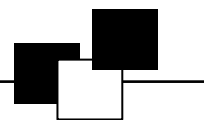
8) その他

・学会賞について

○会長から，学会賞選考委員会による選考結果について説明があり，承認された。

5. 次回以降の理事会予定

- ・第 314 回:2025 年 7 月 26 日（土） 14:00 ～ 17:00 場所: ネット会議
- ・第 315 回:2025 年 9 月 5 日（金） 15:15 ～ 17:15 場所: 広島大学東広島キャンパス
- ・第 316 回:2025 年 11 月 22 日（土） 14:00 ～ 17:00 場所: ネット会議



日 時 2025 年 7 月 26 日(土) 14 : 00～17:00
会 場 オンライン会議
出席者 会 長 隅田 学
副会長 竹中真希子, 久保田善彦, 西村圭一
理 事 松原憲治, 川上 貴, 松浦拓也, 山本容子, 山口悦司, 三宅志穂, 辻山洋介,
舟生日出男, 川越至桜, 中村大輝, 土佐幸子, 大谷 忠, 山本智一, 向 平和,
大貫麻美, 舟橋友香, 竹内慎一
監 事 稲垣成哲, 土田 理
事務局長 益子典文
幹 事 黒田友貴

1. 議事要録(案)の承認

○第 313 回理事会議事録(案)を承認した。

2. 第 314 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により, 2025 年 6 月 30 日までに入会を希望した 30 名(会員番号[5190]から[5219])
と正会員からシニア会員への変更を希望した 2 名を電子会議により審査した結果, 全員の入会及び会
員種別の変更が承認された(2025 年 7 月 2 日)。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理(刊行物送付を含む)や諸対応について報告があった。

○第 49 回定時代議員総会資料について報告があった。

2) 経理・会員

○2024 年度収支決算の決議について報告があった。

3) 機関誌編集

○「科学教育研究」オープンアクセス情報 Web ページ新設について報告があった。

4) 調査研究・学术交流・男女共同参画ワーキング

○ダイバーシティ&インクルージョンに関するシンポジウムの開催について報告があった。

5) 年会企画

○第 48 回年会(函館大会)の会計処理について報告があった。

6) 日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会

○創立 50 周年記念事業企画の準備状況について報告があった。

4. 協議事項

1) 経理・会員

○2025 年度の収支予算書（案）について説明があり，承認された。

2) 支部・研究会

○2025 年度予算について説明があり，承認された。

3) 調査研究・学术交流・男女共同参画ワーキング

○研究倫理に関する基本方針（案）について説明があり，改廃は理事会での承認事項とすることが確認され，継続して審議を行なうことになった。

4) 年会企画

○年会発表受付システム変更について説明があり，承認された。

5) 広報・学会 IT 化

○委員交代（新委員：内ノ倉真吾氏，辻山洋介氏）について説明があり，承認された。なお任期は 2025 年度末までとする。

6) 日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会

科学教育研究促進部門

○学会賞表彰規程の改訂（案），科学教育 Book Award 規程細則（案），および科学教育 Book Award 内規（案）について説明があり，継続審議を行なうことになった。

7) その他

日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会

科学教育啓発活動・イベント部門

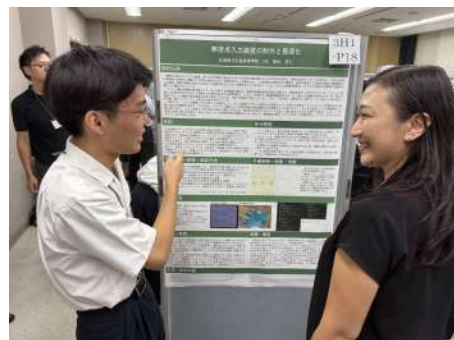
○第 49 回年会でのラウンドテーブル参加者募集説明があり，呼びかけの依頼が共有された。

5. 次回以降の理事会予定

- ・第 315 回:2025 年 9 月 5 日(金) 15:15～17:15 場所: 広島大学東広島キャンパス（対面実施）
- ・第 316 回:2025 年 11 月 22 日(土) 14:00～17:00 場所: ネット会議
- ・第 317 回:2026 年 3 月 21 日(土) 14:00～17:00 場所: ネット会議
- ・第 318 回:2026 年 6 月 13 日(土) 14:00～17:00 場所: 株式会社内田洋行 茅場町ファーストビル
（予定，ハイブリットでの開催）

科学教育啓発活動・イベント部門プレ行事開催報告

広島大学東広島キャンパスで開催された第 49 回年会において、創立 50 周年記念事業の一環として 3 日目の 9 月 7 日（日）にプレ行事を開催しました。午前は年会のインタラクティブ・セッションと合同で「中高生の探究発表」を実施しました。中学生 4 件、高校生 21 件の発表がありました。発表はポスター形式で、会場には発表者、研究者、現職教員、保護者ら 100 名以上が訪れました。発表者の日頃の探究の成果が報告されると、中高生同士の質疑応答やディスカッション、学会員である研究者や現職教員の質問やコメントが活発に飛び交い、会場は非常に熱気に溢れました。発表した生徒が、研究者からのコメントやアドバイスを切望している様子も伺えました。



午後は、高校生、大学生、大学院生、学会員である研究者や現職教員、50 人あまりが世代を超えて集まり、「平和と科学と教育」をテーマに意見を交流し合う「ラウンドテーブル」を実施しました。ディスカッションに先立って、広島大学附属高等学校の 5 人の生徒から『ユネスコスクールにおける活動を起点に考える未来志向の「平和と科学と教育」』と題した話題提供があり、『「科学」という国の枠を超えた共通テーマを介して互いが対話を重ねて相手を理解し合うことができるのではないか』という考えが示されました。それを受け、各テーブルでは円形のディスカッションボードを囲んで、それぞれの思いや考えを可視化しながら意見を交流し合いました。「平和とは何か」や教育の在り方について、科学の使い方に対する哲学的深慮などを含め、多岐にわたる視点から対話が繰り広げられました。最後に学会長の隅田学先生にご講評をいただき、科学と平和の間に教育を挟むことの重要性について示唆していただきました。

事後アンケートで、「ラウンドテーブルは有意義だった」と 97% の参加者から回答がありました（N=38）。その理由として「様々な分野の研究や教育に携わっている方のお話を聞き、考えの幅や視点が広がった」ことや「平和を科学の視点から考えることはほとんどなかったし、大学などの先生と対等に話し合ったのも貴重な経験であった」ことが挙げられていました。また、平和と科学と教育のつながりについて、「科学と平和を結びつけるのは難しいと考えていたが、間に教育を挟むことで繋がれるとわかった」などが挙げられ、世代や立場を超えた交流の場となりました。

学会創立 50 周年記念のプレイベントとして、本学会初の中高生と学会員が交流する機会を提供することができ、科学教育研究の進歩普及に資するという本学会の役割の一つを果たせたのではないかと思います。

最後になりましたが、ご引率くださった中学校・高等学校の先生、保護者のみなさま、並びに開催にご協力くださったみなさまに深くお礼申し上げます。



第 49 回年会開催報告

日本科学教育学会第 49 回年会は、2025 年 9 月 5 日（金）～7 日（日）の日程で、文部科学省、広島県教育委員会、東広島市教育委員会の後援を得て、広島大学教育学部共催にて執り行われた。本学会は、来年度、創立 50 周年記念事業を行う予定であり、今年の年会はその広報的な役割も担っていた。

今回の年会では、前々日から台風が接近をして、当日の朝まで予断を許さない状況が続いた。年会企画委員会と年会実行委員会で、学会規約や大学の規定など様々な情報を確認しつつ、当日の朝まで天気予報と交通情報を心配しながら見守った。結果として、それらは杞憂に終わった。

今回の年会を総括すると、記念講演、シンポジウム、招待講演（科学教育研究セミナー）、記念プレ事業、そして、課題研究 17 セッション（発表数 91 件）、一般研究発表 158 件（内英語での発表 15 件）、インタラクティブセッション 4 件であった。そして何より全国から非常に多くの方々にご参加をいただくことができた。

シンポジウムは次世代を代表する論者にお話をいただき、熱気ある話が展開された。また創立 50 周年の前年ということで開催された「記念プレ行事」で、特に中高生によるポスター発表（25 件）では非常に多くの見学者が詰めかけて、熱心なやり取りが行われた。教室いっぱいに入り、その熱気は来年につながるものであった。

今年会の「記念講演」では、広島そして日本を代表する世界的な企業として、株式会社マツダのエンジニア・上藤和佳子氏に、「マツダ Mazda×電動化～商品・技術と私たちの飽くなき挑戦ストーリー」というお話を頂いた。マツダのロータリーエンジンを発電機として復活させたり、地元企業との連携や多様な世界戦略などを検討されたり、当事者としてのお話はとても興味深いものであった。

また、今回、広島の日本酒を楽しんでもらいたいと考えた。広島大学が位置する東広島・西条の日本酒を 3 本、竹原・呉・三原からの日本酒を 3 本、合計で 6 本準備した。非常に好評で、日本酒ブースの前には行列ができ、1 時間ほどでほぼ出尽くした。

多くの参加者、年会企画委員会、年会実行委員会の皆様方のおかげでこのように充実した内容にすることができました。今回、年会実行委員長をお引き受けしたものの、実質的な仕事は、優秀な年会企画委員会、年会実行委員会の皆様方が迅速かつ的確に対応をしてくださりました。皆さまにはこの場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

来年の 50 回年会が益々の盛会となること、またさらに本学会や科学教育研究の更なる発展を祈念して、報告とさせていただきます。

日本科学教育学会第 49 回年会実行委員会 委員長 馬場 卓也

第 50 回年会 開催案内（第 1 次）

1. 日程：2026 年 9 月 11 日（金）～13 日（日）（3 日間を予定）
2. 会場：東京大学 駒場キャンパス
（〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1）
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/campus-guide/map02_02.html
3. 第 50 回年会実行委員会
委員長 大島まり（東京大学）
委員 川越至桜（東京大学），沼田宗純（東京大学），森 晶子（東京大学），玉澤春史（東京大学），上田史恵（東京大学），樗木悠亮（東京大学）
4. 年会企画委員会
委員長 服部裕一郎（岡山大学）
副委員長 福田博人（岡山理科大学），畠山 久（東京科学大学）
幹 事 石橋一昂（岡山大学）
担当理事 大谷忠（東京学芸大学），山本智一（兵庫教育大学）
委員 安部洋一郎（兵庫大学），新井しのぶ（中村学園大学），岡部 舞（大阪教育大学），小野寺かれん（岡山大学），川越至桜（東京大学），川崎弘作（岡山大学），木村優里（東京科学大学），小泉健輔（横浜国立大学），平林真伊（山形大学），増田有紀（埼玉大学），谷田親彦（広島大学），山中真悟（福山市立大学），山本輝太郎（金沢星稜大学）

2025 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	2025 年 11 月 29 日(土)	2025 年 10 月 30 日(木)	オンライン
若手活性化委員会	2025 年 12 月 6 日(土)	2025 年 11 月 6 日(木)	大阪教育大学 天王寺キャンパス (一部オンライン)
東北支部	2025 年 12 月 20 日(土)	2025 年 11 月 20 日(木)	秋田大学 手形キャンパス
北陸甲信越支部			富山大学
北関東支部	2026 年 3 月 15 日(日)	2026 年 2 月 13 日(金)	埼玉大学
四国支部	2026 年 5 月 30 日(土)	2026 年 4 月 30 日(木)	鳴門教育大学
中国支部	2026 年 6 月 14 日(日)	2026 年 5 月 15 日(金)	岡山大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご確認ください。

※右の QR コードより、学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます。

<https://jsse.jp/1-3>



2025 年度 第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）

JSSE 1st Research Conference in 2025 (conducted in English and hosted by International Exchange Committee)

[テーマ / Theme]

Science Education from Global Perspectives

[主 催 / Organization]

一般社団法人 日本科学教育学会
Japan Society for Science Education

[日 時 / Date & Time]

2025 年 11 月 29 日(土) 9:00~12:00
Saturday, November 29, 2025, 9:00-12:00 (JST)

[会 場 / Place]

オンライン開催
Online

[対 象 / Participants]

会員, 非会員
JSSE members, non-members

[参加申込・締切 / Registration and deadline: Participation]

発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です（発表される場合は原稿投稿料が必要です）。

参加を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入の上、送信してください。

<https://forms.gle/aE5Np2c8TgXhxp6N8>

参加申込締切は 2025 年 11 月 24 日(月) です。11 月 26 日(水) 以降にオンライン開催の Zoom URL を直接ご連絡いたします。

Anyone can participate, regardless of whether they have a presentation. JSSE non-members are also welcome to participate.

The fee for participation is free (if presenting a paper, the first author needs to pay the publication fee).

Below is the link to the registration website for participation.

<https://forms.gle/aE5Np2c8TgXhxp6N8>

The deadline for the participation registration is Monday, November 24, 2025. We will send the participants the Zoom link used for the conference on or after November 26.

[発表申込・論文提出締切 / Registration and deadline: Presentation and submission]

発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。発表申込の際に「入会申込」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、上記「参加申込」にある URL より、必要情報をご記入ください。

※ 連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。

※ タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。

※ プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されますとプログラムに反映されないことがあります。その際には、ご了承ください。

※ J-STAGE に公開する『科学教育研究報告』の目次は、投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。

発表申込締切、および、原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2025 年 10 月 30 日(木) です。

本研究会では、所定の締切日より前に、発表件数を把握したいと考えています。つきましては、発表予定の方は、10 月 20 日(月) までに、上記「参加申込」にある URL より、発表申込を行っていただければ幸いです。ご協力をお願いいたします。

※ 原稿投稿料の支払いと原稿の提出は 10/30 まで大丈夫です。

※ 発表申込は 10/20 を過ぎても 10/30 までであればお受けいたします。

【重要事項】原稿の提出と入金両方が確認されない場合には、自動的に発表は取り消しとなりますので、くれぐれもご注意ください。また、入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので、予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行ってくださいようようお願い申し上げます。

連名発表者の研究会への参加申込は各自個別に行ってください。発表申込をした第一著者は、参加申込の必要はありません。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

<https://jsse.jp/1-3/115-2>

英文要項は以下になります。

<https://jsse.jp/wp-content/uploads/2024/08/Guidelines-for-preparing-a-manuscript2024.pdf>

研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

<https://jsse.jp/1-3/125-2>

英文フォーマットは以下になります。

https://jsse.jp/wp-content/uploads/2022/09/Format-for-JSSE-Proceeding_English2022.docx

原稿は次のウェブサイトから投稿してください。

<https://jsse-kenkyukai-form.jp/>

研究会情報のプルダウンメニューで「国際交流委員会」を選んでください。

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。

アドレスの(atmark)の部分は@です。

Single or multiple researchers can make a presentation if at least one JSSE member is included in the presenters. If an application to the JSSE membership has already been submitted at the time of registration for presentation at this research conference, the applicant will be regarded as a member of JSSE.

If you would like to present your research, please fill in the registration form at the link shown in “Registration and deadline: Participation” above.

- For registration, please list the names and affiliations of co-authors in the order they appear in the paper.
- Please use the same title in the paper as provided in registration.
- We will make the conference program based on the information provided in registration. If you change co-authors or titles, it may not be reflected in the program.
- The table of contents for “JSSE Research Report” published on J-STAGE will be made based on the authors’ names and presentation titles indicated in the submitted paper.

The deadline for presenters’ registration, payment for presentation, and paper submission is Thursday, October 30, 2025.

We would like to know/estimate the number of presentations before the specified deadline, so it would be great if individuals planning to present register by Monday, October 20 via the link shown in “Registration and deadline: Participation” above. We appreciate your cooperation.

- Payment for the presentation and submission of the paper are acceptable until October 30.
- Presentation registration submitted after October 20 will be accepted until October 30.

[Important Note] Please note that if paper submission and payment are not confirmed, the presentation will be automatically cancelled. In this case, the paid fee is non-refundable under any circumstances. It cannot be transferred to other conferences either. We will not take care of any inquiries regarding refunds or similar matters. Please plan your presentation application carefully.

Co-authors need to register for participation in the conference by themselves. The first author who

completed registration for presentation does not need to register for participation.

Please refer to the following link for a sample format of paper.

https://jsse.jp/wp-content/uploads/2022/09/Format-for-JSSE-Proceeding_English2022.docx

The Japanese sample format: <https://jsse.jp/1-3/125-2>

Please also refer to the following links for detailed explanations.

<https://jsse.jp/wp-content/uploads/2024/08/Guidelines-for-preparing-a-manuscript2024.pdf>

<https://jsse.jp/wp-content/uploads/2022/09/Publication-fee-for-research-conference.docx>

Please upload your paper at the following website. <https://jsse-kenkyukai-form.jp/>

When submitting a paper on this website, please select “International Exchange Committee” from the pull-down menu. The confirmation email will be sent automatically from < info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp > [(atmark) = @]. Please ensure that you can receive the email from this email address.

[プログラム（予定） / Tentative program]

- ・ 海外の研究者によるゲストトーク（2 講演）：下記 2 名の研究者をお迎えし，teacher noticing や STEM 教育についてお話を伺います。
 - ・ Ban Heng Choy
Associate Professor, Nanyang Technological University, Singapore
“Teaching mathematics in an AI-driven world: The role of teacher noticing”
 - ・ Irma Rahma Suwarma
Associate Professor, Universitas Pendidikan Indonesia, Indonesia
“STEM education development pathways and impact in Indonesia”
- ・ 英語による一般発表
- ・ 参加者同士の情報交換会（12:00～12:30）
- ・ Two guest talks by international researchers: The following two researchers will share their insights on teacher noticing and STEM education.
 - ・ Ban Heng Choy
Associate Professor, Nanyang Technological University, Singapore
“Teaching mathematics in an AI-driven world: The role of teacher noticing”
 - ・ Irma Rahma Suwarma
Associate Professor, Universitas Pendidikan Indonesia, Indonesia
“STEM education development pathways and impact in Indonesia”
- ・ General research presentations conducted in English
- ・ Social hour by participants after the conference (12:00～12:30)

[問い合わせ先 / Inquiry]

小松 孝太郎（日本科学教育学会 国際交流委員会開催英語による研究会）
筑波大学人間系

komatsu.kotaro.ft(atmark)u.tsukuba.ac.jp ※アドレスの(atmark)の部分は@です。

Kotaro Komatsu (Board Member, JSSE International Exchange Committee)
Institute of Human Sciences, University of Tsukuba
komatsu.kotaro.ft(atmark)u.tsukuba.ac.jp [(atmark) = @]

多数の方々の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 国際交流委員会 委員 小松 孝太郎 (筑波大学)

We look forward to having you in the online research conference.

Kotaro Komatsu, Chair, JSSE International Exchange Committee

2025 年度 第 2 回日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）

[テーマ] 次世代の科学教育研究

[主 催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日 時] 2025 年 12 月 6 日(土)

スケジュール概要（予定）

- 受付：9:30～10:00
- 企画：10:00～12:00
- ポスターセッション 13:00～17:00

[会 場] 対面開催（一部オンライン）

大阪教育大学天王寺キャンパス 西館

〒543-0054 大阪府大阪市天王寺区南河堀町 4-88 番

[対 象] 会員，非会員

[参加・発表申込]

- 発表申込：11 月 6 日(木)
- 原稿投稿料の振込・原稿の提出締切：11 月 6 日(木)
- 発表の有無にかかわらず参加可能
- 発表のない参加は対面/オンライン問わず当日申込でも可
- 参加費無料

参加あるいは発表を希望される方は，以下の URL より必要情報をご記入の上，送信してください。 <https://forms.gle/cm3xZNtsY9PtTTP76>

※ 原稿は次のウェブサイトから投稿してください。（投稿料の振込先情報あり）

〈URL： <https://jsse-kenkyukai-form.jp/> 〉

[発表方法]

発表は全てポスター発表の形式で実施

① 当日の発表について

ポスター発表の形式（サイズは A0 または A1 で縦表示）

② 事前動画の提出について

発表動画の提出が必要です。動画の詳細については，上記の参加・発表申込フォームをご

確認ください。

[発表条件・論文提出締切]

発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。発表申込の際に「入会申込」が完了していれば、会員として扱うこととします。

※ 連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。

※ タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。

※ プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されますとプログラムに反映されないことがあります。その際には、ご了承ください。

※ J-STAGE に公開する『科学教育研究報告』の目次は、投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。

※ 連名発表者の研究会への参加申込は各自個別に行ってください。

【重要事項】原稿の提出と入金両方が確認されない場合には、自動的に発表は取り消しとなりますので、くれぐれもご注意ください。また、入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので、予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行っていただきますようお願い申し上げます。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2> 〉

研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2> 〉

原稿は次のウェブサイトから投稿してください。

〈URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/> 〉

研究会情報のプルダウンメニューで「若手活性化委員会」を選んでください。

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。

アドレスの(atmark)の部分は@です。

[問い合わせ]

若手活性化委員会・幹事 岡部 舞 (大阪教育大学)

E-mail: okabe-m90[atmark]cc.osaka-kyoiku.ac.jp ([atmark]の部分は@です)

多数の方々の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 若手活性化委員会委員長 岡本 紗知 (大阪大学)

2025 年度 第 3 回日本科学教育学会研究会（東北支部開催）

[テーマ] 科学教育の現在とこれから

[主 催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日 時] 2025 年 12 月 20 日(土) 10:00～16:30（終了時刻は予定）

[会 場] 秋田大学手形キャンパス 一般教育棟 2 号館

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1 番 1 号

[対 象] 会員，教員，学生，社会人

[参加・発表申込]

発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

参加を希望される方は，以下の URL より必要情報をご記入の上，送信してください。

参加申込: 〈URL : <https://forms.gle/83vyCXQvDErAxzhUA> 〉

発表を伴わない場合，当日の参加も可能ですが，できるだけ事前の申し込みをお願いします。

[発表条件・論文提出締切]

発表は，単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。発表申込の際に「入会申込」が完了していれば，会員として扱うこととします。

発表を希望される方は，以下の URL より必要情報をご記入の上，送信してください。

発表申込: 〈URL : <https://forms.gle/83vyCXQvDErAxzhUA> 〉

※ 連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。

※ タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。

※ プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されますとプログラムに反映されないことがあります。その際には，ご了承ください。

※ J-STAGE に公開する『科学教育研究報告』の目次は，投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。

発表申込締切，および，原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は，2025 年 11 月 20 日(木)です。

連名発表者の研究会への参加申込は各自個別に行ってください。発表申込をした第一著者は，参加申込の必要はありません。

【重要事項】原稿の提出と入金両方が確認されない場合には，自動的に発表は取り消しとなりますので，くれぐれもご注意ください。また，入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので，予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行っていただきますようお願い申し上げます。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2> 〉

研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2> 〉

原稿は次のウェブサイトから投稿してください。

〈URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/> 〉

研究会情報のプルダウンメニューで「東北支部」を選んでください。

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。

アドレスの(atmark)の部分は@です。

多数の方々の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 東北支部長 加藤 慎一（秋田大学）

「日本科学教育学会の活動に関するアンケート」のお願い

この度、調査研究・学術交流担当では、今後の学会活動の改善や運営方針の策定に必要な基礎資料を収集するため、学会員の皆様の学会に対するニーズや期待を把握するアンケート調査を企画いたしました。本調査により得られたご意見は、会員の皆様の要望に基づいた学会活動を展開していくための貴重な基礎資料とさせていただきます。つきましては、大変お忙しいところ誠に恐縮ですが、下記の通りアンケートへのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 質問フォーム：<https://forms.gle/eqeZawTGUTnY7YwH7>



- 回答期限：2025年11月30日（日）

- 対象：日本科学教育学会 会員の皆様

- 所要時間：15分程度

- 今後の予定：

お寄せいただいたご意見は、統計的に集計・分析し、個人が特定されない形で理事会へ報告するとともに、学会報告書として会員の皆様へも共有させていただく予定です。分析結果は、今後の学会運営の方向性や活動方針の見直しに活用いたします。※本調査は匿名で実施いたします。ご回答いただいた内容によって個人が特定されることは一切ございません。

ご多忙の折とは存じますが、本学会の発展のため、皆様の率直なご意見をお聞かせいただくと幸いです。何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

調査研究・学術交流担当
中村大輝，川越至桜

第 49 回日本科学教育学会年会 国際ランチョン・ミーティング
開催報告

日本科学教育学会第 49 回年会において、2 日目の 9 月 6 日（土）12:50～12:50 に国際ランチョン・ミーティングを対面形式で開催しました。委員も含め、事前登録 24 名、当日参加 15 名の計 39 名の方にご参加いただき、大変盛況でした。

今回はまず、委員会より関係する領域の主要な国際学会に関する情報をお知らせし、広島大学大学院・博士課程後期院生の嶋田亘佑氏、野村優成氏に「海外でのフィールドワークのはじめ方と実施」というテーマで話題提供いただきました。その後、各グループで英語による国際学会への参加や国際交流についてディスカッションが行われました。グループディスカッションでは、参加者のこれまでの体験や国際交流に関する関心などが活発に議論され、充実した会となりました。

また、国際交流委員会が 11 月 29 日（土）に開催する英語による研究会（2025 年度第 1 回研究会）の案内も行われました。英語での研究会は 5 回目の開催となります。会員の皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、次ページの開催案内をご参照ください。

国際交流委員会では毎年、年会期間中の昼食時間帯にランチョン・ミーティングを開催し、会員同士の交流を通して、国際的な研究活動のきっかけ作りを行っています。次年度の第 50 回年会でも開催予定です。企画についてご要望などありましたら、国際交流委員会にお寄せください。

最後になりましたが、今回のランチョン・ミーティングの開催にあたりご協力頂いた年会実行委員会、年会企画委員会、広報委員会の皆様、参加者の皆様に感謝申し上げます。



担当：越智拓也（成蹊大学）

2025 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）

開催予告

2024 年度に引き続き、2025 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催 英語による研究会）を 2025 年 11 月 29 日（土）にオンライン（Zoom 利用）にて開催します。この研究会は、科学教育研究について、会員の皆様が英語で発表する場を設け、国際的な発信を促すとともに国際交流を活発化することを目的として、論文掲載、一般発表、および講演をすべて英語で行います。

これまで国際学会等に参加したことがない方でも安心してご参加いただけるように、一般発表では、トラブル時など日本語でサポートできるように準備をしていますので、多数の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

○日時：2025 年 11 月 29 日（土）9:00-12:00 （予定）

○開催方法：Zoom によるオンライン開催

○研究会のプログラム概要

<海外の研究者によるゲストトーク>

下記 2 名の研究者をお迎えし、ゲストトークを行います。

- ・ Dr. Ban Heng Choy (Nanyang Technological University, シンガポール)

Title: Teaching mathematics in an AI-driven world: The role of teacher noticing

- ・ Dr. Irma Rahma Suwarma (Universitas Pendidikan Indonesia, インドネシア)

Title: STEM education development pathways and impact in Indonesia

<英語による一般発表>

英語による研究発表を行います。初めての方も大歓迎です。

なお、研究会終了後に情報交換会の開催も予定しております。

○発表・参加申込について

- ・ 研究会 URL：<https://jsse.jp/workgroup/2025-01>

- ・ 発表・参加申し込み先 URL：<https://forms.gle/aE5Np2c8TgXhxp6N8>

発表申込・原稿提出・原稿料支払い期限：2025 年 10 月 30 日（木）厳守※

参加申込期限：2025 年 11 月 24 日（月）

※ 所定の締切日より前に発表件数を把握したいため、発表予定の方は、10 月 20 日（月）までに発表申込を行っていただけますと幸いです。詳細は上記の研究会 URL をご確認ください。

今回から発表申込と同時に原稿提出と原稿料支払いが必要になりました。ご注意ください。

国際学会参加報告(74)

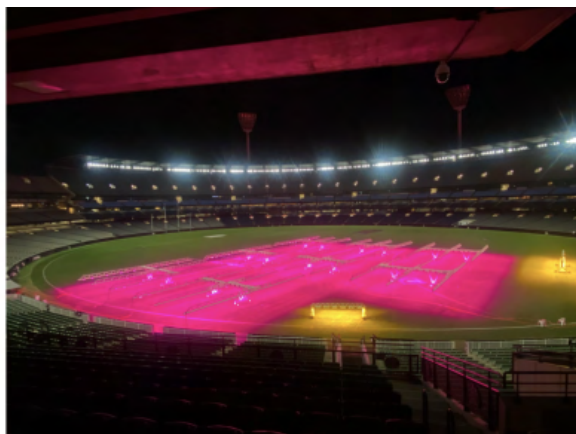
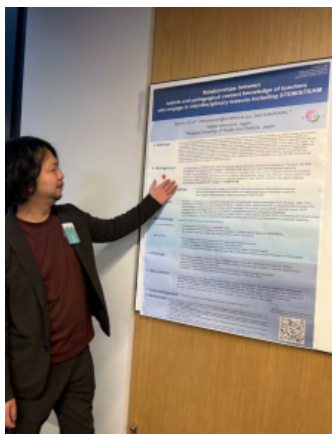
2025 Conference (ASERA56)

2025年7月1-4日の期間、オーストラリアのメルボルン、Deakin DowntownにてASERA の2025 Conference (ASERA 56) が開催されました。ASERAは毎年開催されており、4年に1度はニュージーランドで開催されています。

ASERAはオーストラリア、ニュージーランドを中心とした理科教育の学会ですが、参加者は環太平洋地域を中心とした40カ国以上から集まり、大変な盛会でした。「ASERAはディスカッション」と参加者からの声もありましたが、口頭発表では20分の発表に対し、20分の質疑応答があるということは非常に特徴的でした。その雰囲気も暖かく、学会全体で科学教育研究を盛り上げようとする空気も印象的でした。報告者はポスター発表をしましたが、30分のセッションが計4回設定されており、口頭発表と同様にディスカッションが重視にされていました。

Banquetはクリケットグラウンド（写真右）の一室で行われ、後半ではASERAの役員を中心としながらダンスが催され、各国・地域独特の盛り上がりが窺えました。

次回は、2026年6月30日-7月3日にクイーンズランド州・ブリズベンで開催され、発表申し込みは、2026年2月末までであることがアナウンスされています。



越智拓也（成蹊大学）

国際学会開催情報

World Association of Lesson Studies (WALS) 2025

開催地：広島，日本

期間：2025年11月10日-11月12日

<https://www.walsnet.org/2025/>

ICPE (International Conference on Physics Education) 2025

開催地：New Delhi, India

期間：2025年12月16日-12月20日

<https://icpe-2025.in/>

NARST (National Association for Research in Science Teaching) 2026 Annual International Conference

開催地：Seattle, US

期間：2026年4月19-22日

<https://narst.org/conferences/2026-annual-conference>

8th ICASE 2026 World Science and Technology Education Conference

開催地：Cork, Ireland

期間：2026年6月22-25日

発表エントリー〆切：2026年3月1日

<https://icaseonline.net/icase2026/>

EASE (East-asian Association for Science Education)

開催地：Hong Kong, Hong Kong

期間：2026年6月25-27日

ASERA 57 2026 Conference (Australian Science Education Research Association)

開催地：Brisbane, Australia

期間：2026年6月30-7月3日

発表エントリー〆切：2026年2月末

<https://www.asera.org.au/2026-conference/>

PME49 (The 49th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education)

開催地：Helsinki, Finland

期間：2026年7月27日-8月1日

<https://www.helsinki.fi/en/conferences/pme49>

ICOTS12 (The 12th International Conference on Teaching Statistics)

開催地：Brisbane, Australia

期間：2026年7月12-17日

<https://communities.isi-web.org/event-icots12>

CERME15 (The 15th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education)

開催地：Bratislava, Slovakia

期間：2027年2月8-12日

<https://www.cerme15.org>

ICTMA-23 (The 23rd International Conference on the Teaching of Mathematical Modelling and Applications)

開催地：Skukuza, South Africa

期間：2027年8月22-27日

ESERA (European Science Education Research Association) Conference 2027

開催地：Málaga, Spain

期間：2027年8月27日-9月3日

ICME-16 (The 16th International Congress on Mathematical Education)

開催地：Prague, Czech Republic

期間：2028年7月9-16日

<https://www.icme16.org/>

日本科学教育学会 第49回年会 若手企画 報告

第49回年会では若手活性化委員会によるチュートリアル企画として、「#交流したいです」と「論文執筆のための対面サポート」の2つを実施しました。

1つ目の企画は、参加者に気軽に楽しみながら交流をしていただくもので、科学教育に関わる研究や実践の歩みを今後共にするであろう仲間との一段深い関係形成を目指して実施されました。当日は46名が参加し、「研究とプライベートのバランスをどう考えていますか?」「論文の執筆が進まないときどうしていますか?」などのトピックについてお互いの考えを共有しました。参加者からは「知り合いがほぼいない中でも楽しく話すことができました」(修士課程院生)や「異分野の研究をされている方や、自分より少し先のキャリアの方とお話できて、刺激を受けることができました」(修士課程院生)、「個々の研究の話だけではなく、研究に関する様々な話ができた」(博士課程院生)などの感想をいただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



「#交流したいです」の様子 (こちらから動画もご覧になれます: [動画リンク \(Youtube\)](#))

2つ目の企画は、論文執筆に向けた研究の支援を目的として、参加者から寄せられた具体的な疑問や悩みに応えるゼミ形式の会が実施されました。事前に申し込みをいただいた3名の方にご参加いただき、「論文の〇〇セクションのこの書き方はどうだろうか」「〇〇の観点から見たとき、よりインパクトのある論にするためにどうしたらよいか」など、ご自身の論文執筆に際しての疑問点を共有いただきました。これに対し、4名のサポートメンバーがそれぞれの専門を生かしてコメントや議論を行いました。参加者からは、「濃密な35分間だったと感じました」「ふだんは専門が似ている方との議論になるところを、今回は様々なバックグラウンドの方からご助言をいただけるので大変貴重な機会となりました」などの感想をいただきました。また、今回の「論文執筆に向けた対面サポート」企画では、若手活性化委員会の外部から、雲財寛先生(広島大学)、古賀竣也先生(熊本大学)にサポートメンバーとして加わっていただきました。運営一同、改めてご協力に感謝申し上げます。



「論文執筆に向けた対面サポート」の様子

2025 年 第 2 回日本科学教育学会研究会(若手活性化委員会開催) 予告

若手活性化委員会が担当する研究会は、2025 年 12 月 6 日（土）に大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催します。

[テーマ] 次世代の科学教育研究

[主 催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日 時] 2025 年 12 月 6 日（土）

受付：9:30-10:00

企画：10:00-12:00

ポスターセッション 13:00-17:00

[会 場] 対面開催（一部オンライン）

大阪教育大学天王寺キャンパス 西館

〒543-0054 大阪府大阪市天王寺区南河堀町 4-88 番

[対 象] 会員，非会員

[参加・発表申込]

- 発表申込：11 月 6 日（木）
- 原稿投稿料の振込・原稿の提出締切：11 月 6 日(木)
- 発表の有無にかかわらず参加可能
- 発表のない参加は対面/オンライン問わず当日申込でも可
- 参加費無料

参加あるいは発表を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入の上、送信してください。 <https://forms.gle/cm3xZNtsY9PtTTP76>

※原稿は次のウェブサイトから投稿してください。（投稿料の振込先情報あり）

〈URL： <https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

[発表方法]

発表は全てポスター発表の形式で実施

①当日の発表について

ポスター発表の形式（サイズは A0 または A1 で縦表示）

②事前動画の提出について

発表動画の提出が必要です。動画の詳細については、上記の参加・発表申込フォームをご確認ください。

[発表条件・論文提出締切]

発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。発表申込の際に「入会申込」が完了していれば、会員として扱うこととします。

※連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。

※タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。

※プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されますとプログラムに反映されないことがあります。その際には、ご了承ください。

※J-STAGE に公開する『科学教育研究報告』の目次は、投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。

※連名発表者の研究会への参加申込は各自個別に行ってください。

【重要事項】原稿の提出と入金両方が確認されない場合には、自動的に発表は取り消しとなりますので、くれぐれもご注意ください。また、入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので、予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行っていただきますようお願い申し上げます。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2>〉

研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2>〉

原稿は次のウェブサイトから投稿してください。

〈URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

研究会情報のプルダウンメニューで「若手活性化委員会」を選んでください。

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は@です。

[託児サービスの実施]

本研究会では、託児サービスを実施する予定です。利用を希望される方は、参加申込 URL の選択項目にてお知らせください。詳細は、利用希望者に別途お知らせ致します。

また、託児サービスの利用の有無に関わらず、本研究会は、お子様と一緒にのご参加も歓迎致します。また、ご家庭の事情等で参加が難しくなった場合は、ご遠慮なくご相談ください。

[研究会（会場）に関する問い合わせ]

若手活性化委員会・幹事 岡部 舞（大阪教育大学）

E-mail: okabe-m90[atmark]cc.osaka-kyoiku.ac.jp （[atmark]の部分は@です）

多数の方々の申込みをお待ちしております。

<その他>

研究会に関わる情報は学会 HP のほか、若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで随時公開していきます。どうぞご期待ください。

Facebook ページやメーリングリストの登録は、随時、受け付けています。ぜひご登録ください。

○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jssewakate/>

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

2024 年度第 4 回編集理事会報告

2024 年度第 4 回編集理事会は、2025 年 9 月 3 日に、オンライン会議システム Zoom を利用した遠隔会議で開催された。まず、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2026 年 12 月発刊予定）」（第 50 巻、第 4 号）の企画が協議された。続いて、オープンアクセスジャーナル化検討部会の進捗状況として、「科学教育研究」のオープンアクセスジャーナル化に関する準備・実施状況、第 49 回年会（広島大会）における編集委員会主催ミーティング「会員と考える『科学教育研究』のオープンアクセス化」の企画などが報告された。続いて、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2025 年 12 月発刊予定）」（第 49 巻、第 4 号）の編集状況、特集「【創立 50 周年記念事業】科学教育研究の集積と未来への架橋（2026 年 6 月および 2027 年 6 月発刊予定）」（第 50 巻、第 2 号および第 51 巻、第 2 号）の準備状況、「科学教育研究」オープンアクセス情報 Web ページ新設などが報告された。

次回の編集理事会は、2025 年 11 月に、対面もしくは遠隔会議での開催が予定されている。

2025 年度第 1 回編集委員会報告

令和 7 年 9 月 5 日（金）に、第 49 回年会会場の広島大学において対面会議で開催された。まず、2020-2021 年度の編集委員会の構成が報告された。まず、出席者の自己紹介の後、編集委員会・編集理事会の活動及び編集の進め方が確認された。続いて、「科学教育研究」の編集状況（通常号・特集号）、オープンアクセスジャーナル化の検討状況が報告された。今後の編集委員会および編集理事会の予定などが報告された。その後、編集に関わる留意点などに関する協議が行われた。

第 49 回年会における編集委員会企画 「会員と考える「科学教育研究」のオープンアクセス化」の実施

第 49 回年会において、編集委員会企画として、「会員と考える「科学教育研究」のオープンアクセス化」を実施した。講師として、林和弘先生（文部科学省科学技術・学術政策研究所）、加納圭先生（滋賀大学）をお招きして、編集委員会オープンアクセスジャーナル化検討部会の木村部会長、石橋部会長の進行で、事前アンケートで会員のみなさまから寄せられた質問事項に答える形式で実施した。当該の企画には、30 名ほどの参加者があり、「科学教育研究」のオープンアクセス化の時期やそのメリットなどに関する質疑応答が行われた。最後に、内ノ倉編集担当理事から、これまでの会員に対するオープンアクセス化のアンケート結果や当該企画での質疑応答を踏まえて、今後編集委員会として、「科学教育研究」のオープンアクセス化を進める方向で検討したい旨の報告があった。

特集投稿募集のお知らせ（再掲）

編集委員会では、下記の主旨で、「科学教育研究」第50巻第2号および第51巻第2号での特集を企画します。研究論文、総説、展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規定により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要がありますので、その点ご注意ください。

編集委員長・特集編集部部长 青山和裕

記

特集名：科学教育研究の集積と未来への架橋

日本科学教育学会が学会創立50周年を迎える現在の社会は、地球温暖化、生物多様性の喪失、人口動態の変動が現在進行形で加速し、不平等の拡大や社会の分断、人類の福利への脅威に関する難題に直面し、生成AIの出現・発展など大きな転換点を迎えている。今後の社会において求められる資質・能力とはなにか、あるいは人間が学ぶとはどういうことか、その中で学校・教育はどのような役割を果たすべきかといったことについて向き合っていかななくてはならない。科学教育の未来に向き合うために、これまで科学教育研究に取り組んできた先人の努力・研鑽、蓄積について形にすることで今後の飛躍のための堅固な土台を築きたい。

こうした趣旨のもと、本特集では、第50巻第2号および第51巻第2号にわたる2年連続特集として、「科学教育研究の集積と未来への架橋」をテーマに掲げ、広く投稿を募集する。本特集では、教科の枠組みに基づく研究成果の集約にとどまらず、AIやデータサイエンス、STEM/STEAMなど、教科横断的・学際的な視点による論考や、システムティックレビュー、ナラティブレビューなど、多様なアプローチによる提案を歓迎する。これまでの研究を振り返り、その知見を未来に活かすため、多くの投稿を期待する。

特集部会の構成メンバー

部会長：青山和裕（愛知教育大学）

副部会長：西村圭一（東京学芸大学）

特集編集部会委員：清水美憲（筑波大学）、大谷 忠（東京学芸大学）、大貫麻美（白百合女子大学）、中村大輝（宮崎大学）ほか

【第50巻第2号について】

事前申込締切：2025年9月30日（終了）＊事前申込なしでも投稿可能です。

＊査読プロセスを円滑に進めるため、特集は投稿前に「事前申込」を設けております。

＊投稿を予定している方には誠にお手数ですが、著者名・所属、タイトル、論文種別、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所を [jsse-hen\[atmark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[atmark]nacos.com) までお送りください。

＊「第 50 巻第 2 号」の特集への投稿であることをお書き添えください。

＊事前申込せずに投稿する場合は、投稿締め切りまでにご投稿ください。

投稿受付開始：2025 年 7 月 1 日

投稿締め切り：2025 年 10 月 31 日

＊特集に投稿する場合は、投稿システムの「手順 6: 設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください。

＊査読は、10 月 31 日以降、順次開始します。

発刊予定：2026 年 6 月（50 巻 2 号）

投稿論文の取り扱い

第 50 巻第 2 号の刊行までに採択されない投稿論文については、第 51 巻第 2 号の特集論文としての査読を継続いたします。

【第 51 巻第 2 号について】

事前申込締切：2026 年 9 月 30 日

＊査読プロセスを円滑に進めるため、特集は投稿前に「事前申込」を設けております。

＊投稿を予定している方には誠にお手数ですが、著者名・所属、タイトル、論文種別、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所を [jsse-hen\[atmark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[atmark]nacos.com) までお送りください。

＊「第 51 巻第 2 号」の特集への投稿であることをお書き添えください。

＊事前申込せずに投稿する場合は、投稿締め切りまでにご投稿ください。

投稿受付開始：2026 年 5 月 1 日

投稿締め切り：2026 年 10 月 31 日

＊特集に投稿する場合は、投稿システムの「手順 6: 設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください。

＊査読は、10 月 31 日以降、順次開始します。

発刊予定：2027 年 6 月（51 巻 2 号）

投稿論文の取り扱い

第 51 巻第 2 号の刊行までに採択されない投稿論文については、一般論文としての査読を継続いたします。

ただし、その際には、査読システムの特性上、改めて一般論文として新規投稿していただきます。

以上

1. 新規投稿論文（2025.9.1～2025.9.30）： 6 編

【内訳】

和文 6 編

英文 0 編

2. 査読中論文（2025.9.30 現在）： 36 編

【内訳】

著者に差し戻し中（受付前）： 1 編

担当編集委員選出中： 3 編

査読者選出中： 0 編

査読者諾否待： 3 編

査読中（1 回目）： 12 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中： 3 編

改訂稿待ち： 5 編

査読中（2 回目）： 8 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中： 0 編

編集委員長による最終判定中： 1 編

3. 掲載決定論文（2025.9.1～2025.9.30）： 5 編

【内訳】

研究論文： 3 編

総説・展望： 0 編

資料： 1 編

プラザ： 1 編

【合計】

49-3 号： 0 編（通算 8 編）

49-4 号： 5 編（通算 9 編）

4. 投稿状況及び掲載決定状況の推移（2022.9.1～2025.9.30 現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数 （掲載号）		掲載不可論文数 （見なし取り下げを含む）	
	和 文	英 文	和 文	英 文	和 文	英 文	掲載不可	取り下げ
2022年 9月	4	0	21	0	0 (46-3) 9 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	2	0
2022年 10月	11	0	25	0	0 (46-4) 0 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	6	1
2022年 11月	12	0	31	0	0 (46-4) 1 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	4	1
2022年 12月	6	0	34	0	1 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	2	0
2023年 1月	7	0	30	0	2 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	9	0
2023年 2月	8	0	31	0	0 (47-1) 4 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	3	0
2023年 3月	17	0	35	0	5 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	8	0
2023年 4月	19	0	48	0	1 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	4	1
2023年 5月	11	0	43	0	0 (47-2) 3 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	11	2
2023年 6月	6	0	41	0	3 (47-3) 1 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	4	0
2023年 7月	5	1	39	1	1 (47-3) 2 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	3	1
2023年 8月	8	0	36	0	0 (47-3) 5 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	7	0
2023年 9月	4	1	29	1	6 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	5	0
2023年 10月	18	0	36	1	5 (47-4) 1 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	5	0
2023年 11月	20	0	53	1	0 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	1	2
2023年 12月	4	0	52	1	1 (48-1) 0 (48-2)	0 (48-1) 0 (48-2)	4	0
2024年 1月	7	0	51	1	0 (48-1) 0 (48-2)	0 (48-1) 0 (48-2)	6	2
2024年 2月	13	0	53	0	2 (48-1) 2 (48-2)	0 (48-1) 1 (48-2)	7	0
2024年 3月	21	0	55	0	5 (48-2) 0 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	5	4
2024年 4月	26	0	56	0	6 (48-2) 3 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	15	1
2024年 5月	10	0	43	0	1 (48-3) 1 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	17	1
2024年 6月	9	0	42	0	0 (48-2) 5 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	5	0
2024年 7月	7	0	41	0	1 (48-3) 1 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	5	1
2024年 8月	3	0	31	0	0 (48-3) 7 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	6	0
2024年 9月	2	0	21	0	0 (48-3) 5 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	7	0
2024年 10月	19	0	32	0	2 (48-4) 1 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	5	0
2024年 11月	13	1	34	1	0 (48-4) 2 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	9	0
2024年 12月	2	0	28	1	0 (48-4) 1 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	7	0
2025年 1月	9	0	27	0	0 (49-1) 0 (49-2)	0 (49-1) 0 (49-2)	10 (うち英文1)	1
2025年 2月	10	0	32	0	2 (49-2) 0 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	2	1
2025年 3月	7	0	32	0	5 (49-2) 0 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	2	0
2025年 4月	23	0	46	0	3 (49-2) 1 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	5	0
2025年 5月	7	1	44	0	0 (49-2) 2 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	7	1
2025年 6月	5	0	34	0	4 (49-3) 0 (49-4)	0 (49-3) 0 (49-4)	10	1
2025年 7月	10	0	36	0	1 (49-3) 1 (49-4)	0 (49-3) 0 (49-4)	6 (うち英文1)	0
2025年 8月	13	1	41	0	0 (49-3) 3 (49-4)	0 (49-3) 0 (49-4)	5	1
2025年 9月	6	0	36	0	6 (49-4) 0 (50-1)	0 (49-4) 0 (50-1)	9	2

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 274 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事： 大貫麻美（白百合女子大） 向 平和（愛媛大）

委 員： 内ノ倉真吾（鹿児島大） 辻山洋介（群馬大） 舟生日出男（創価大）
中村大輝（宮崎大） 日下智志（鳴門教育大） 増田有紀（埼玉大）
袴田綾斗（高知大）

幹 事： 谷塚光典（信州大） 村田翔吾（日本体育大） 後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷（株） 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会